



漫
遊
記

入遠13
1992
2



13
1932
2

漫遊記卷之貳



○ふり血人

東の二條より立ちる。若くは男の情ありけり。親なきなりて
心そむくはなかりて。お世業のよごもり捨て置けり。こと

たうらわれはつらきこと。このときれが親族ともいそめてこ

有る心ほろもる。お世業をもうへぬは終り。身もほろおきて

からふとも必しもいさかきつる。たうらうとて。お世業はゆめに

かたはりし。よしたけとむり。つらき。お世業はかくとせしむ。せど

居りし。お世業は家より出せり。お世業はつらき。お世業はつらき。お世業はつらき。



漫遊記卷二

ち遠く山よむ。おも洵して雨だのほも。二
 三日もゆるげたのほ。らん。家業も。
 なほよまうせ。かよ。は。ぬ。と。
 て。肉。も。と。あ。出。る。風。山。の。ま。
 小室の花。と。口。も。行。た。
 或日か。陰。ひ。と。ま。体。も。た。び。と。ま。が。も。暮。
 お。ゆ。ら。ら。ら。げ。な。女。連。の。男。も。の。重。
 ど。も。も。と。ま。と。居。ま。る。と。ま。え。や。は。酒。汲。
 か。り。て。ま。ん。ま。ど。と。た。の。陰。と。ま。ら。か。り。ら。

と。ぬ。ら。い。と。め。れ。幕。の。不。と。び。さ。ら。り。目。と
 や。く。ん。付。ま。の。だ。ま。し。ら。な。い。と。ま。の。は
 だ。か。ら。も。か。げ。と。ま。や。が。か。も。い。列。も。奴。ら。
 ち。か。ど。ら。れ。げ。と。ま。酒。も。ぬ。ら。や
 ち。も。も。ら。う。と。ま。ぬ。ら。ひ。ぬ。ら。ぬ。ら。
 く。い。と。ま。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。
 ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。
 ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。ぬ。ら。

これらも^{ゆづり}人よと^{いひ}けれ^てけ^るま^ごら^ぐめ^いひ^して
か^さら^らる^る。髪^うら^はは^じめ^は耳^のま^まご^もが^い洗^えま^よ
ゆる^さな^ど中^に入^りて^おち^らひ^らげ^らる^人とな^りて^衣を^まけ^ら
け^る程^のを^れら^う物^とも^さし^もお^ちら^んと^さら^り
と^さく^クま^のま^ごれ^らう^とら^う。そ^のお^かえ^をさ^して^き
て^ゆく^まい^ひと^しく^はま^はら^した^まに^その^本の^たま^はの^たら^した^ま
枝^のい^らは^れを^しよ^まか^れて^ける^まお^ちら^らぬ^ら
と^琴の^弓な^もき^さう^にぬ^ら。彼^は終^に死^にな^らぬ^や
など^と。は^らう^に引^ひら^そて^いひ^はる^人も

か^し。ち^ささ^うり^のま^ごら^うま^ごで^けら^るま^ごの^まま^らふ^木
よ^めて^見の^まお^ちら^らぬ^まい^ひや^らぬ^まご^もさ^らぬ^ま
そ^肩裳^と流^らう^て今^や人^の出^くむ^人入^ると^まは^らは
ど^よま^らう^のま^ごな^らて^女の^まま^らう^てお^ちら^ぬま^ごと^いは^れ
の^人や^らう^はら^らう^とい^はれ^ば嫌^にて^いは^れる^時に^糸
て^びあ^れや^らぬ^まご^もさ^らぬ^まご^もい^はれ^ぬま^ごと^いは^れ
今^かし^中に^まま^らう^て入^にて^その^まま^らう^にら^うと[。]
た^のま^らう^にお^はら^ぬま^ごも^さら^ぬま^ごも^いは^れぬ^まご^も
け^るま^ごも^さら^ぬま^ごも^いは^れぬ^まご^も。月^おう^らね^おま^さな^れぬ^まご^も

人々付託ほど大や乳付たんとおもひにそれく居る。
 さて成の時るに守の鼓のともはよ。いづくもせられ
 て。風のおとのさやとゆめあるも。耳くさげそ。さて待ま
 ねくの方らう。まをやうよ。背のまへて。健よや。いづくも
 ろくくと。あまも。さ。此方よ。あま。いづくも。
 とらふ。彼ゆめ。いづくも。待せ。いづくも。
 ま。いづくも。いづくも。いづくも。いづくも。
 金々をひらね。いづくも。いづくも。いづくも。
 くれ。人の心も。いづくも。いづくも。いづくも。

く。林をえぐ。いづくも。いづくも。いづくも。
 泥のさく。いづくも。いづくも。いづくも。
 うく。いづくも。いづくも。いづくも。
 ちく。いづくも。いづくも。いづくも。
 又中門の。いづくも。いづくも。いづくも。
 ち。いづくも。いづくも。いづくも。
 う。いづくも。いづくも。いづくも。
 か。いづくも。いづくも。いづくも。
 なる。いづくも。いづくも。いづくも。



とてかくさるる者なりといふほどは後なるものとていひ
 くるむとてわくち申せぬをまじくしてたるはうらしの内
 うち女をまのなうとてえんよとてあつらせ給ふはなを
 おとくにおたりまもゆらんやとて女をのにおとく
 といふつらねたつこいよはむとてはなを今もなむとて
 とつとんむいづらしとてねめいへ居るよはそむいぢも者
 うのいぬぬとて指とてせざる人のあつらひくまうと
 かくさるる入付者ぞとのなまうとてえんはなを
 といふがくさるる入付者なりとてまははつとんむいぢも者

といふとていふも人一人はむとてまじくやといふよ
 おどほむいづらしとていふとていふはなをいづらし
 一の内うちとていふとていふはなをいづらしとていふ
 親をまじくつらねたつこいよはむとてはなを今もなむ
 捧持は男責とていふとていふはなをいづらしとていふ
 といふとてや又いづらしとていふはなをいづらしとていふ
 いづらしとていふはなをいづらしとていふはなをいづらし
 なるはなをいづらしとていふはなをいづらしとていふ
 つらねたつこいよはむとていふはなをいづらしとていふ

よ作らるる人々も知る事なれ。唯は此の如く
作らるるなりとよのし。作らるる人々も知る事なれ。
おんとしよ

よ作らるる人々も知る事なれ。唯は此の如く

と作らるる人々も知る事なれ。唯は此の如く

追出さるる人々も知る事なれ。唯は此の如く

あつては彼男の如く行はぬ事なれ。唯は此の如く

るる人々も知る事なれ。唯は此の如く

が如くして古き集まらるる人々も知る事なれ。唯は此の如く

次郎人よりうごきわいてとく事なれ。唯は此の如く

追がらるる人々も知る事なれ。唯は此の如く

るる人々も知る事なれ。唯は此の如く

んもほろみどはおと事なれ。唯は此の如く

たぐらるる人々も知る事なれ。唯は此の如く

はらるる人々も知る事なれ。唯は此の如く

金戸つらうかよ事なれ。唯は此の如く

らるる人々も知る事なれ。唯は此の如く

まども事なれ。唯は此の如く

白浪しろなみらうまでこぼれをおぼせり。髪かみごとくみ本のほんをあらと以もつ
 ぐかゝるあたりとひとつごとくたのめとよおし入いる。
 ちちらふあはれもそのそのおのりおのりとれぞれをあらら石いしたるたらら孤こ
いの性しやうええにいかいさんさんとてややううてあららよよううううくく火ひをあららく
 ちちらふあはれれ遠とほくくと白浪しろなみたるたららくく死し奴やつららふ。
 ちちらふあはれれああはれれとてとええにいかいさんさんとてといいとく
 ちちらふあはれれをあらら湯ゆにいれれ後あとづづんんとといいふふままああれれ女むすめ々々事ことの
 ことなるあららぶぶががああららももせせぐぐいいふふままああれれ女むすめ々々事ことの
 其そのおおらら属ぞくくく痛いたむむをあららくくてていいくくううめめをあららくく

なるあららててにいちちめめくくれれをあららくくのあららええにいかいさんさんとて
 髪かみをあららひひらくくよよかかららいいははれれ私わたしのあららまま事ことをあららくくばばららせ
 ちちらふあはれれとてと化かけけららくくとといいふふれれががああららん
 とてと電でんのあららまま事ことをあららくくとといいふふれれががああららん
 ちちらふあはれれとてと踏ふみみかかららくくとといいふふれれががああららん
 彼かれれ治ちのあららまま事ことをあららくくとといいふふれれががああららん

○抱守たうしゆ主しゆのあららまま事ことをあららくくとといいふふれれががああららん

明和六年戊戌の年めいわのあららまま事ことをあららくくとといいふふれれががああららん
 方あらら西せい津つ村むらとといいふふれれががああららん
 小こ松まつ原はら角かくをあららくくとといいふふれれががああららん
 者もののあららまま事ことをあららくくとといいふふれれががああららん

つひらりらぶ。その方駁の刀祢蔵を主人とて者の家ははく唄の抱
 守して居る。その年の十四日か入る。うりたる。さて。いつの日
 け。こよわい出く。主の子とて昔よおひく。まじり。を。居る。
 病よ。り。り。て。や。く。く。さ。る。た。の。を。と。本。を。肩。さ。る。
 子。成。く。を。む。と。と。と。や。と。く。逐。う。と。い。ら。ぬ。が。ま。の。み。か
 と。大。切。な。れ。り。ひ。ぬ。も。が。む。や。く。ま。ま。つ。た。と。う。て。懐。い。お。し
 か。ら。し。な。が。ら。は。ら。む。ひ。く。依。り。ま。ら。う。た。ら。た。の。み。か。し。よ。
 其。抱。守。が。臍。板。を。く。ひ。や。づ。う。抱。く。と。む。と。さ。る。と。人。の。か
 ら。け。く。抱。る。あ。が。た。る。い。げ。さ。う。ぬ。ま。で。い。ま。し。う。か。く。

こののち。ま。は。は。き。さ。し。ら。う。や。と。同。の。と。く。う。ま。な。り。
 と。て。ま。は。き。み。か。ら。し。て。ま。ま。に。け。い。と。ま。ま。に。お。の。れ。後。
 家。の。ま。ま。う。ら。る。時。親。う。と。ま。ら。う。ま。の。い。ま。教。う。ま。ら。う。
 法。心。を。ま。ま。と。り。ま。れ。守。つ。と。ま。ま。に。奉。ら。う。ま。と。加。へ。り。
 ば。ま。ま。と。ま。れ。と。ま。ま。に。一。と。の。ま。ま。に。ひ。ま。目。出。く。後。と。は。く。し
 う。う。う。う。ま。ま。の。ぬ。が。い。た。の。ま。ま。に。食。へ。と。せ。し。後。ま。ま。に。ま。ま。
 る。う。う。ま。ま。の。ひ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 い。や。ま。
 と。ま。

仕立てかむとつ里なり歎又若かりて侍るよ小松原が毒
 まらりて我娘の病も同ぐんはは覚まいくぐふらぬせ
 しづやちらやきさぬばらうと同侍らるぞいとほじ
 かつらうかくて医師とむらう葉成ともたつとらりし
 かども終は愈えども秋よなりて死なうらうとも我よ乃
 命の親なりといひく。厚くそふむつとあさみんたるは國
 の守ささく免し。ぞとぐひをたそのよおぼく免とこれ。
 今平幸印のまなげとこそそふぬうふとわらうを免
 街道のかそくは侍り西徳寺とら寺の内の人目も付く

よ其墓をさうくさこれ忠誠なる志のそと免終つとら
 ほやひらうよまらう。終ひくりく。又小松原の年貞
 とも長く免。終ひ寺は白浪五段と終ひくそのい
 かふとこいそは免。うとを人作せ下さまうとさなり

○梅が代と云香の名

香をささくをぬる人ほは道は物やどひく人の世乃
 の中ら時ば香燵の中らうらうらるる國香采能知とらよを
 出ぶらう。沈おとら入教をうけくハ平下下の政でも
 けおとをれぐたし愚うよためひまごころんよ其なをの



なるほもおおの海とて又の目の眩と人をほまぐの
 物新のそとへ回ひまうたれまひちとまきくこまらま
 是なりしとて。りちちやゆらておとほとくぞさるまを
 侍らざとらへはなまはらふははなまきくりる本ちり
 と。系のものおとれとてまらへらゆはくろいてたごとく
 いらくこをこて回ひりてせらるま。はふの物新のやとま
 いらちち柵櫃のそとて侍ら。若棟樹と名をゆまおま
 ごとやそこしづくまはひくゆはらるなまむとらまらるま
 竹屋の匠おれとてり合せく。若棟皮とて入まの侍ら其若

棟皮まきまきとてまのなうてまらとての女音まらまは
 ぬこげくほまはまらとてらとれ成るまらとまらま本
 室ま侍らやとらまらまらまら侍らまらまらまらま
 侍らとまらまららららららららららららららららら
 こそまかくまらうて侍らまらまら其柵櫃まらまらまらと
 ららまら侍らまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらの本まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 いらまら本の一人まらまらまらまらまらまらまらまら
 柵の棟まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

豊後守

〇一五

ふらふらせしとんとて其日もしも心よやぐりけ本のかこ
つよまきむらじむもたせぬりぬるこいひ敷きし降りしが
廿日ぶつろふくくつふゆむんくすまむやとあひひて
降りかかるものそとやげしてさげさつこのほごい本をい
かすぬしとて又下アささうたりつよらふあきて作乃
でくんとてさうくくもむちむさすてささうさよいや
十日ぶつろふくくむらむらむらむら年のもんはごさるを
しとて又後とつふむちかなくさるうも其根の本をた
べしとて自ら湯とて行くたを根の正と掘切くるとか
らうして根をよきよしとてさるうも其根の本をた

くろくして根をよきよしとてさるうも其根の本をた
せと焼くたうくくくくくくくくくくくくくくくくくく
代とて人を付くくくくくくくくくくくくくくくくくく

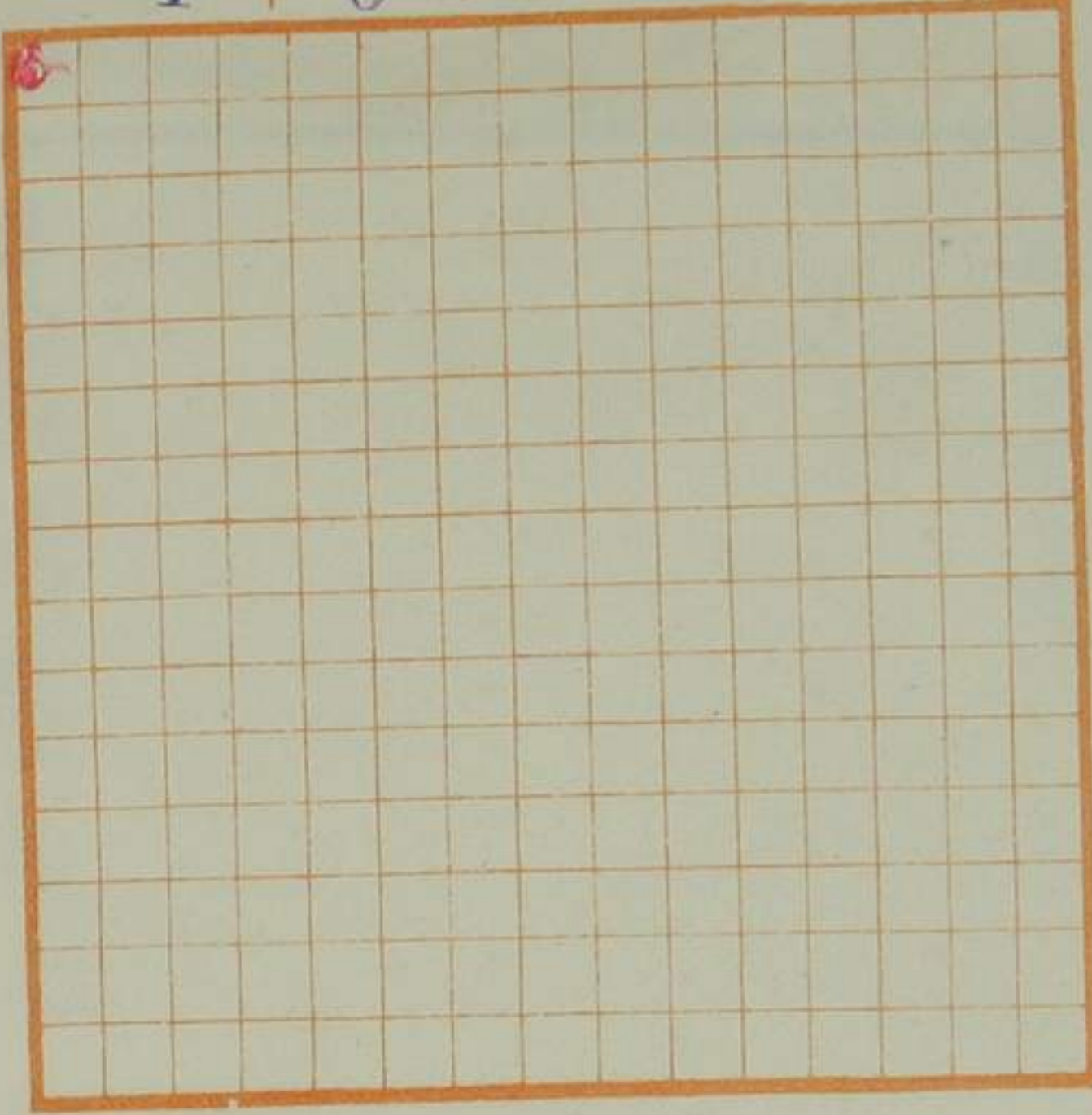
○学問の時も

くらなる高橋とつりけうのやんおさるの活列は
の作と守るくくくくくくくくくくくくくくくくくく
よ本河はよふくくくくくくくくくくくくくくくくくく
さかんにくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
らうして登むくくくくくくくくくくくくくくくくくく

鳴るぬがひの飛まき 其葉のこころとこころのながさぬ
 一りりとばさるよかかれくりんとするよききく居さり
 かざばんとくばんぬのまうよきまそのぞきいんぐやごか
 ひまゆらとば用よんぬぬ。田うみつゆらきり紙ひこのみ
 このこころとこころとねやけいよとねのひくよと見えあり
 けもさるまきくけうてふのまがはらう。とこもさかひことを
 長ひくけ被るまは吐令くこひきりぬ足ぞうれきまのかひ
 この中乃ちとくごんぬとよみんことなうらむとねひしてげ
 せんくまけいんとけいよやごそ月のほごころりかさいくと

鳴るぬがひの飛まき 其葉のこころとこころのながさぬ
 一りりとばさるよかかれくりんとするよききく居さり
 かざばんとくばんぬのまうよきまそのぞきいんぐやごか
 ひまゆらとば用よんぬぬ。田うみつゆらきり紙ひこのみ
 このこころとこころとねやけいよとねのひくよと見えあり
 けもさるまきくけうてふのまがはらう。とこもさかひことを
 長ひくけ被るまは吐令くこひきりぬ足ぞうれきまのかひ
 この中乃ちとくごんぬとよみんことなうらむとねひしてげ
 せんくまけいんとけいよやごそ月のほごころりかさいくと

4 年 6 月



漢語言卷一

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

いふはつらつとゆるれざりしうらやまのまはりの
^{おとろけ}時をたたくとせちるうよ海はかくくうらやまなれど
^{あひ}花やかりしと^{あひ}あひ^{これ}と^{あひ}あひ^{あひ}あひ
^{あひ}あひとぞ

漫遊記卷之二終

